	atory of Academic resouces					
Title	肉食社会文化の日独比較史研究					
Sub Title	A comparative history of the development of a meat-based society in Germany and Japan					
Author	光田, 達矢(Mitsuda, Tatsuya)					
Publisher	慶應義塾大学					
Publication year	2018					
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書(2017.)					
JaLC DOI						
Abstract	本研究は、ドイツと日本を対象国に据え、 食生活の近代化に欠かすことのできない「食肉」を切り口とした比較史研究である。 近代化と食肉は不可欠な関係にある。日本では、明治天皇が牛肉を口にしたことを皮切りに、 牛鍋をはじめとする肉料理への忌避感が薄より、肉食社会が加速した。ヨーロッパては、牛、豚、 鶏などの食肉の消費量を増すことで、都市化が進む社会を安定させ、 増える人口の健康水準を引き上げ、発展する経済の労働生産力を高めるようとした。 ところが、肉食社会が発展すればするほど、問題が噴出することになる。例えば、 食肉の大量生産と大量輸送に伴う、 人獣共通感染症のリスクにどのように備えるのかという課題が生まれ、 科学による肉食検査が確立する。このような肉食社会の後々な問題に対して、 ドイツと日本がどのように対処したのかを解明を目指す。 具体的に、次の3つの研究活動に取り組んだ。まず、ドイツのペルリンへ11月に足を運び、公文書館 にて多くの行政資料を発掘した。その中でも衛生局における獣医警察関連の資料が有益であった。 。とりわけ、ワクチンの開発により、 科学と国家による動物身体への介入が活発化した1920年代の資料が興味深かった。 次に、同じくドイツへの研究旅行を通して、 20世紀初頭にドイツ帝国の植民地となった青島に関する文献資料を、 ペルリン国立図書館にで発掘できた。具体的に、ドイツ人によって建設が進められた「東アジアで 最も優れている」とされた層着場の資料を発見することができた。これにより、 家畜の新しい屠畜方法が東アジアでどのように普及していったか明らかにできる。 最後に、上海の復旦大学にて開かれた学会にて、「Mapping New Technologies of Slaughter: the Model Abattoria T Singtao under German, Japanese and Chinese Rule」という題名で研究旅行の 1次的な成果を発表することができた。日本統治時代資料の分析も行った。 The research supported by the Development Fund has enabled preliminary research into a comparative historical generation contrasts the experience of Germany and Japan as both countries transformed increasingly into meat-based societies. During the research trip to Berlin, the investigator was able to visit the state archives. Much was found with regard to material generated by the state veterinary services department as it gained increased access to the body of the animal on the back of developments of vaccines. The research trip to Berlin also made possible research into Taingtao, once a German colony, where the "best abattori in East Asia" was constructed. Reports and articles by veterinarians posted to the town proved particulary useful in understanding how and why an animal and meat inspection regime came into being. Part of the furbits of such endeavors resulted in a paper the investigator presented at the "Closing the Gap - how technology changes human-animal relations" that was held in Fudan University, Shanghai, bearing the following title: "Mapping New Technologies of Slaughter: the Model Abattoria T singtao u					
Notes						
Genre	Research Paper					
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2017000001-20170151					
ONL						

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 2017 年度 学事振興資金(個人研究)研究成果実績報告書

研究代表者-	所属	経済学部	職名	専任講師		
	氏名	光田 達矢	氏名(英	語) Tatsuya Mitsuda		500 (特B)千P
			研究課題(日	日本語)		
肉食社会文化の	り日独比較史	研究				
<u> </u>	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		研究課題(			
A comparative i	nistory of the	development of a meat-	based society in	Germany and Japan		
			1.研究成果実	 績の概要		
本研究は、ドイン	ンと日本を対象	象国に据え、食生活の近	代化に欠かすこと	のできない「食肉」を切り	ロとした比較史研究で	ある。
が薄まり、肉食: が つの健康水気 ところが、肉食れ のリスクにどの、 イツと日本がど 具のの活発化した 次にてきた。これにで 最後に、上海の	社会が加速し	係にある。日本では、明 た。ヨーロッパては、牛、 発展する経済の労働生 ればするほど、問題が噴 かという課題が生まれ、 したのかを解明を目指す 動に取り組んだ。まず、 気勢に取り組んだ。まず、 気料が興味深かった。 な行を通して、20世紀初 行くツ人によって建設が 行しい屠畜方法が東アジ て開かれた学会にて、「 ese Rule」という題名で研	豚、鶏などの食肉 産力を高めるよう 計することになる 科学による肉食 、 イツのベルリン・ 益であった。とり 頭にドイツ帝国の でどのように音力 Mapping New Te	gの消費量を増すことで、 とした。 。例えば、食肉の大量生 検査が確立する。このよう へ 11 月に足を運び、公式 つけ、ワクチンの開発に。 植民地となった青島に関 ジアで最も優れている」と なしていったか明らかにで chnologies of Slaughter:	都市化が進む社会を 産と大量輸送に伴う、 うな肉食社会の様々な な書館にて多くの行政 より、科学と国家による する文献資料を、ベル された屠畜場の資料を ぎきる。 the Model Abattoir at	安定させ、増える 人獣共通感染症 問題に対して、ド 資料を発掘した。 動物身体への介 リン国立図書館 E発見することが E Tsingtao under
		the Development Fund		eliminary research into		
During the reso generated by t developments o	earch trip to he state veto f vaccines.	experience of Germany a Berlin, the investigator erinary services departn Iso made possible resea	was able to visit nent as it gained	the state archives. Mu increased access to the	uch was found with re ne body of the animal	gard to material on the back of
was constructe animal and mea Part of the fruit human-animal	d. Reports an t inspection r s of such end relations″ that	d articles by veterinariar egime came into being. deavors resulted in a pap at was held in Fudan U	er the investigato niversity, Shangh	own proved particularly o or presented at the "Clos ai, bearing the following	useful in understanding sing the Gap - how teo	how and why an
		r at Tsingtao under Gern	nan, Japanese and 3. 本研究課題に			
発表者 (著者・	f氏名 講演者)	発表課題 (著書名・演	名[題]	発表学術誌名 (著書発行所・講演学	学術書 注会) (著書発行年	<sup>5</sup> 発行年月 ≤月・講演年月)
Tatsuya Mitsud		Mapping new tech	nologies of Clo abattoir at Fu	(相音元1)》 确因子 osing the Gap, Nordic dan University, Shanghai	Centre, March 29 20	